

令和3年度 指定管理者セルフモニタリング評価書

指定管理者：株式会社有隣堂

1 基本情報

施設名	綾瀬市立図書館
施設の設置目的	市民の教養の向上及び文化の発展に寄与する。
指定管理者の名称	株式会社 有隣堂
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日(5年間)
指定管理上の目標	5年間で利用者数:125,000人 貸出点数:479,000冊 登録者数:22,100人を目指す。

2 利用状況

利用状況等の推移	対象年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	利用者人数	118,526	117,269	107,643	82,509	103,749	
	貸出点数	447,868	441,096	399,969	307,569	378,184	
	登録者数	20,984	20,937	20,186	19,268	18,591	
	予約数	45,961	48,200	49,613	53,629	56,979	
	蔵書等回転率	1.71	1.68	1.53	1.20	1.47%	

3 管理経費等

(単位:円)

平成30年度指定管理者の収支状況	計画(年間)		実績(年間)	
	<収入の部>		<収入の部>	
	指 定 管 理 料	106,125,555	指 定 管 理 料	106,125,555
	コ ピ ー 利 用 料	18,000	コ ピ ー 利 用 料	22,110
	そ の 他	0	そ の 他	0
	収 入 合 計	106,143,555	収 入 合 計	106,147,665
	<支出の部>		<支出の部>	
	事 務 費	5,353,000	事 務 費	4,644,035
	事 業 費	1,738,000	事 業 費	1,270,125
	人 件 費	59,901,000	人 件 費	59,910,366
	物 件 費	22,548,000	物 件 費	22,742,431
	そ の 他	16,603,555	そ の 他	17,576,598
	支 出 合 計	106,143,555	支 出 合 計	106,143,555
	<収支差>		<収支差>	
	収 入 合 計 - 支 出 合 計	0	収 入 合 計 - 支 出 合 計	4,110

4 業務評価

事業項目	事業内容	評価結果	
		評価	特記事項
利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・開館日数の拡大 ・広域利用: 県央8市1町1村及び藤沢市 ・アウトリーチプロジェクト 電子図書館 市役所・各地区センターの屋外返却ポスト管理 ※各地区センター返却ポスト入替(24時間対応) ・無線LAN 	B	
蔵書点検	<ul style="list-style-type: none"> ・特別整理期間 6日間(9月11日～16日) 	B	
広域利用	<ul style="list-style-type: none"> ・県央8市1町1村及び藤沢市との広域利用を実施 	A	貸借倍率1.9倍。
児童サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館おはなし会の開催(感染症対策で一部中止) 中央公民館・各分室(通年) ・こどもの読書週間おはなし会／布えほん展 (4～5月)／おはなし会は感染症対策で中止 ・出前おはなし会(随時) ・おはなし会ボランティア会議(3月) ・おはなし会まつり(7月)／感染症対策で中止 ・ボランティア交流会(3月)／感染症対策で中止 ・おはなし会講座(3月) ・特別おはなし会／ハロウィンのおはなし会(10月) ・季節のおはなし会「冬」(2月) ・あかちゃんのとしょかん(通年)／絵本コーナー での読み聞かせ等は感染症対策のため中止 ・あやせゼロの日運動 「絵本ふれあい事業」読み聞かせ講座／感染症対策で 中止。代替として動画配信第3弾開始(3月～) ・としょかんスタンプラリー(7～3月) ・図書館の達人講座(通年)／ 動画配信により代替+新小学1年生向け登録キャン ペーン実施 ・読書感想画展代替え案・感染症対策で中止 ・ブックスタート(毎月2回) ・小学生向け郷土資料ページの設置 ・「ミニあやせ」模擬図書館体験協力(7月)／ 感染症対策で中止 ・パスファインダー「ピッキーのあしあと」 (12月) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染 防止対策を踏まえた施 策実施。感染症動向を 把握しながら、適切な運 営を行うことができた。 ・「絵本ふれあい事業」で は、代替策として動画配 信実施。 ・としょかんスタンプラリー は、40周年事業とリンクさ せ10周年企画を実施。
学校連携	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館担当者会議・学校司書連絡会議への 職員派遣 ・学習支援・調べ学習支援(選書と学校支援貸出) ・学校図書館整備の支援 ・教員の社会体験研修の受入／感染症対策で中止 ・学校向けリサイクルブック提供(7月) ・市内小中学校国語科授業成果物の展示 (第1、3、4四半期) 	B	

事業項目	事業内容	評価結果	
		評価	特記事項
YA(ヤングアダルト)サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・YA掲示板設置 ・YA通信発行(年4回) ・CDランキングアンケート(8月) ・職場体験学習の受入(7月) 	B	
シニアサービス・障がい者サービス	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館だより等でサービスをPR ・シニアサービス 「ほんわか」の発行 シニアセカンドライフ展開催(随時) 大活字本の収集 時代小説リストの発行 高齢者施設訪問貸出・配本(通年) リーディングトラッカー館内・館外貸出実施 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サービス 宅配サービス 視覚障がい者への郵送サービス 視覚障がい者対面朗読サービス 	B	
読書普及	<ul style="list-style-type: none"> ・電子図書館サービス運用 ・企画展示(テーマ・時機ごとに随時実施)(本館、分室、地区センター等) ・書庫開放日(通年) ・本館リサイクルブックコーナー設置(通年) ・本の福袋(1月) ・「手づくり講座」(1月) ・「としょかんフェスタ」・感染症対策で中止 ・読み聞かせ動画配信(第2弾、第3弾) 	B	
生涯学習の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土を知る講座・・(3月) ・パスファインダー 「ピッキーのあしあと(一般向け)」配布 ・郷土資料の電子化・電子図書館での公開・・当年度はAV資料をデジタル化(図書デジタル化の代替え) ・開館40周年事業(広報紙での公開) ・国立国会図書館他データベース導入・運用 	B	・40周年事業開始にあたり、著作権・肖像権等の法的課題等の洗い出し等、永続的事業としての基盤づくりを実施。
広報	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館報定期発行(情報発信・PR) 図書館だより(毎月) ピッキーだより(年4回)+総集編 YA通信(年4回) ほんわか(年4回) 分室だより(年2回) ・図書館ホームページ、SNSによる情報発信 ・本館内デジタルサイネージの活用 ・広報あやせ(毎月) ・マスメディアへの情報提供(随時) 	B	・HPの利用率5.9ポイント増加(令和2年度利用者アンケートに基づく)
予約サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・予約サービスの実施 	A	予約件数56,979件(過去最高数値、前年比6.2%増 前年53,629件)

事業項目	事業内容	評価結果	
		評価	特記事項
分室の運営	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な蔵書入替の実施 分室巡回コーナーの設置 通送車の運行 分室独自の展示の充実 分室だよりの発行 	A	貸出数→3分室がコロナ前(R1年)と同水準に回復。新規登録数→北の台・寺尾いずみはR1年を上回った
配本サービス	<ul style="list-style-type: none"> 小学校9校、地区センター3カ所 児童館3カ所、保育園12カ所、幼稚園8カ所 	B	
図書館協議会	<ul style="list-style-type: none"> 第1回(8月書面開催) 第2回(2月オンライン開催) 	B	
図書館年報の作成	「令和2年度図書館の概要」(4月)	B	
夜間警備	夜間開館時に警備員を配置継続	B	利用者の安全の確保
環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 花壇の植栽維持管理 バラのアーチ維持管理 モビールの維持管理 図書館内への写真展示 館内に季節の紙・布の工作等を展示 第2工作部の募集 無線LAN利用促進 タブレット設置(本館2台、分室各1台) 図書除菌機設置 感染症対策関連設備の維持管理 	B	
図書費の執行	図書費の適正執行	B	
選書	<ul style="list-style-type: none"> 見計り選書を実施 毎週火曜日に選書会議を開催 	A	ニーズに合った選書により予約件数伸長、電子図書館利用も堅調に推移。
装備	館内装備を実施	B	
国際資料の整備	電子書籍による外国語資料の充実(英語他多言語)	B	電子書籍での整備に注力
利用者の要望の把握	<ul style="list-style-type: none"> ご意見箱の設置 「利用者の声」の収集と活用 利用者アンケート調査の実施 	A	利用者アンケート調査結果で、総合満足度は80%程度で推移、高い評価を得ている。
司書の配置	常時窓口で司書を配置	B	
繁忙期の対応	シフト変更等によりスタッフを増員	B	
職員研修	<ul style="list-style-type: none"> 館内研修の実施 館外研修の実施 	B	

事業項目	事業内容	評価結果	
		評価	特記事項
情報の共有・周知	<ul style="list-style-type: none"> ・会議・ミーティングの開催 職員会議 全体会議 リーダー会議 	B	
綾瀬市への事業報告	<ul style="list-style-type: none"> ・月間報告書 ・年間報告書 ・事業報告会 令和2年度通期活動報告会(6月) 令和3年度上半期活動報告会(11月) 	B	
セルフモニタリング会議	<ul style="list-style-type: none"> ・四半期ごとに実施 前年度第4四半期(4月) 第1四半期 (7月) 第2四半期 (10月) 第3四半期 (1月) 	B	
市民や市内団体の活動支援	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルサイネージ運用 ・ボランティア団体との定期ミーティング(随時) 	B	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者登録データの管理・除籍の実施 ・節電対応(クールビズの実施) ・第3次綾瀬市子ども読書活動推進計画に関する委員派遣 ・綾瀬市役所への選書・配本サービス ・新型コロナウイルス感染症対策の立案・実施 	A	第3次綾瀬市子ども読書活動推進計画策定対応

評価	基準
A	計画以上に成果があった。
B	計画どおり実施できた。
C	改善を要する。

6 指定管理者コメント

指定管理者評価

1 事業の概要

・前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症(以下、感染症)が蔓延し、社会的にも大きな問題となった。

・第3四半期において一旦感染者数が減少し収束の機運が高まったが、第4四半期に入り感染者数が急激に増加、結果として感染症蔓延が通年にわたり図書館利用動向に大きな影響を与えた。

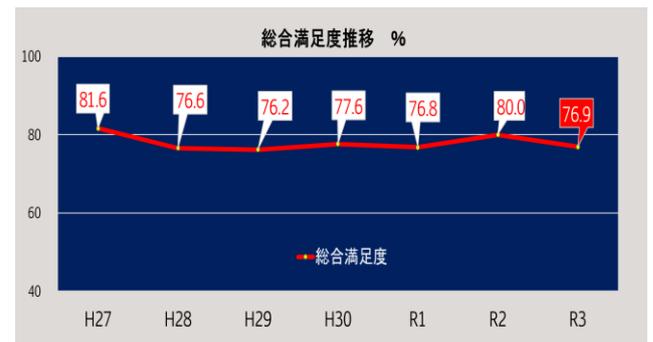
・感染症対策を講じた運営を継続し、おはなし会、講座等行事開催については少人数制を軸に感染リスクを最小化する体制とし、集客型の行事等は中止した。

・コロナ以前の令和元年度と比較した利用者数・貸出数は令和元年度の水準にほぼ回復した。

・サービス4年目を経過した電子図書館は、昨年と横這いの利用が継続している。

●利用者アンケート調査

例年実施しているアンケート調査の総合満足度数は、ほぼ80%の高い水準で推移しており、高い評価を得ている。



2 指定管理料の執行

感染症対策のためイベントは中止し、40周年記念事業として準備した予算はスタンプラリー10周年記念誌作成のみの支出となった。また、ブックスタート事業での配布図書の在庫確認と調整を行い支出を抑えられた。その分を感染症対策費や電子図書館コンテンツ購入や備品購入、CD・DVD購入等に振り替えた。最低賃金上昇により人件費支出が増えた。全体としては予算の執行は滞りなく行えた。

3 次年度の課題

- ・感染症との共存を前提としたサービス、行事等の正常運営
- ・北の台図書室建替えに伴う、蔵書移動(除籍含む)やサービスポイント増設検討。
- ・次期指定管理業務受託に伴う企画提案と実施プラン策定

6 第三者による評価

第三者評価

1 図書館資料

(1) 本・雑誌

選書、資料整備等十分配慮されている。利用者の動向、資料の新鮮度、また、国際資料については市内在住外国人や外国語の授業等にご配慮下さい。

(2) AV-CD・DVD、紙芝居等

デジタル化や利用動向に留意下さい。コロナとの関連もご注意ください。(在宅利用)

(3) 電子書籍

県内各館の導入も増えてきているが未だ初期的段階である。青少年・高齢者・障がい者・アウトリーチの視点と、本館・分館のスペース不足等デメリットをふまえて検討、導入を進められたい。

(4) 郷土資料

アーカイブ化は期待される原資料の収集・保存とあわせて電子資料での保存・活用が望まれる。将来的には藤沢・寒川のような方向性が期待される。

(5) 除籍と活用

除籍・リサイクル等順調に処理されている。郷土資料等永年保存すべき資料については電子化も含めて計画的に対応して欲しい。

2 図書館サービス

(1) 一般成人

コロナへの対応は十分なされていると判断される。この体験を通してコロナ後を見通したい。

(2) 児童

少子化が如実になってきている。将来を見据えたサービスを考えたい。電子化、学校との連携等着実に進めたい。

(3) 高齢者

60、70代の利用者が増え、さらに80代も増えていく傾向にある高齢者サービスに重点をおく必要があり、年齢、体調等に応じた対応が求められてきます。

(4) 障がい者

今後、高齢化にともない視覚・聴覚障がい者が増加すると思われる。障がい者の状況にあわせたサービスの検討が求められる。

(5) アウトリーチサービス

今後、利用の高齢化にともない来館できない利用者対応が発生してくると思われる。

(6) AV-CD・DVD、紙芝居

児童・青少年の動向に注目して館外利用を進められたい。

(7) 電子書籍

コロナ禍の中、導入を進める館が増えてきたが利用が急増するとは思われない。在宅利用やスペース等の利点があり、利用状況にあわせて導入を進められたい。

※サービス内容については読書環境、職員の応接等を含め十分対応がなされていると評価される。よりよい資料、よりよいサービスが期待される。

3 運営・管理

(1) 開館時間等

コロナ禍の中、適切な対応をしてきたと判断される。コロナ後を見据えたい対応をお願いしたい。

(2) 広報

市民全般に伝わる広報をお願いしたい。さらにコロナ後を見据えて利用の普及・拡大に努められたい。

第三者評価

(3) 読書環境

館内の整備については職員サービス、利用者との連携等大いに評価される。

(4) 分室

3分室の利用者、貸出数は評価される。開館時間、蔵書等留意され、普及をはかられたい。

(5) 市民協働・ボランティア

コロナ禍での利用の減少を回復し、さらに普及を図るには市民の協力は不可欠と考えられる。

(6) 学校との連携

生涯学習のスタート、学校や関連団体との連携を進め、児童への読書普及、読書力の向上を推進したい。

4 その他

(1) コロナ禍の中のサービス

コロナも3年、先が見えてきたような感があります。メリット・デメリットの評価、利用回復等対策が必要です。

(2) 利用促進

利用の減少はコロナの前からであり、少子高齢化をふまえて今後の読書普及対策が強く望まれます。

(3) 相互協力・広域利用

市民協働は今や一般的であり、また、利用の広域化も進んでいます。相互の補完体制が必要です。

(4) 施設・スペース・駐車場

施設の広さ・蔵書数は県中市立(本館)で最下位にあり、従って館内のスペースも極めて狭いということとなります。このような状況下で運営者は最大限の努力をしているものと評価される。また、駐車場については苦情に対応するよう市との調整が必要と思われる。

◎評価

第3期に入り諸施策も順調に施行されている。コロナへの対応も順当である。施設の運営・管理、諸サービス、職員・読書環境等よく配慮されている。コロナ後も見据えつつ諸課題を解決し、利用者の望ましい図書館となるよう市や市民と共同で努められるよう願っています。